

佐倉福音キリスト教会

サクサク通信

2019年11月号(第59号)



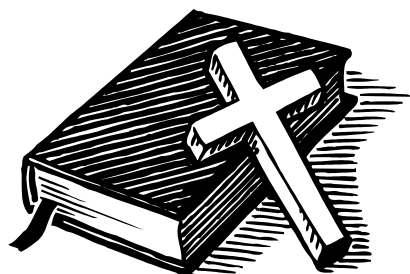
牧師：大高 伊作

電話：043-461-2983

住所：佐倉市白井田 774-83

mail: isaku.sakura.church@gmail.com

HP : <http://sakura-fukuin.com>



今月の聖書のことば

そのとき、ペテロがみもとに来て言った。「主よ。兄弟が私に対して罪を犯した場合、何回赦すべきでしょうか。七回まででしょうか。」イエスは言われた。「わたしは七回までとは言いません。七回を七十倍するまでです。】【マタイの福音書 18 章 21～22 節】

“人を赦す^{ゆる}ことができない”という経験はないでしょうか。親に言われたあの言葉、友だちの行動、会社の上司から受けた対応などなど。大人になった今も、学生時代に受けたいじめを引きずり、心の中で憎しみ続けるということもあるかもしれません。その相手のことを赦すことが出来たらどれほど楽だろうか、と思わされますが、現実には赦すことが出来ずにいるということがあるかもしれません。大げさではなく、“人を赦す”ということは、人生の一大テーマのようにも感じます。

さて、聖書は“赦す”ということについてのどのように語っているのでしょうか。ペテロというイエス様の弟子が質問しました。「主よ。兄弟が私に対して罪を犯した場合、何回赦すべきでしょうか。七回まででし

うか。」この当時、指導者たちは三回までは隣人に罪の赦しを請うことが出来ると教えていました。そこでペテロは、それを上回る“七回”を提示しました。実際、私たちの歩みを振り返ってみましても、三回も赦しを請われて赦せるだろうか、と思わされます。一度でも嫌なことをされたらずっと恨み続けたり、相手が謝って来ても、その後も根に持ち続けるということはないでしょうか。三回でも現実的ではないように思いますが、ペテロはそれを上回る七回を提示し、これで十分でしょう、と考えたのかもしれませんが。それに対してイエス様は次のように返答しました。「わたしは七回までとは言いません。七回を七十倍するまでです。」この“七回を七十倍”とは、実質的には限りなく赦し続けなさいということが言

